

基本方針
コンセプト

阿蘇を リ・デザイン する

— 新たなる阿蘇のまちへ —

阿蘇地域は近年、大雨による水害、噴火、平成28年4月の熊本地震などの災害にたびたび見舞われてきました。また、全国的に課題となっている人口減少、過疎化などが見られる一方で、阿蘇特有の雄大な自然景観を有し、その環境や人とのつながりを求めて多くの人が来訪する地域でもあります。

阿蘇地域振興デザインセンター（以下DC）では、地域の復興を願い、今あらためて、人々や周囲とのつながり、地域資源や暮らし方などを見直し、ずっと住み続けることができるよう、地域を支えて地域づくりを推進するというDCの「原点」に帰って活動していきたいと考えています。

DCの役割を見直しながら、各地域それぞれの良さを活かしつつ、時につなぎ役となり、また阿蘇の「根っこ」を育て、「地球の顔」としての阿蘇づくりを目指し、総合的かつ長期的視点をもって、阿蘇の地域づくりを推進します。

ずっと
住み続けられる
阿蘇づくり



取り組み1.

地域の元気再生による地域力向上

目的

本財団では、阿蘇地域の地域力を高めることを目的に、地域資源を活用した地域づくり団体等の多様な取り組みを活性化し、地域住民とともに展開してきました。熊本地震を含む自然災害等に関して、地域力を生かしながら乗り越えてきた経験を活かし、さらに磨きをかけながら、さまざまな活動との連携を図り地域で活動できる人材育成を展開します。

また震災復興情報なども織り込みながら、阿蘇地域全体の活力・活性維持に向けた情報発信にも取り組みます。

① 住民主体の復興アクションへの支援（元気再生支援事業）

地域住民や団体・組織などの実施する、地域の元気を取り戻すため災害からの復興に関する取り組みに対し、助成事業を行います。

② 的確な情報の発信

市町村や関係機関と連携しながら、阿蘇管内にある様々な情報を DC で一元化し、阿蘇情報のポータルサイトや各種広報媒体を活用し、インバウンドも含めた観光客誘致を視野に入れ、阿蘇の景観・自然・食・温泉など資源情報発信を行うとともに、地域ブランドを活かし、イベントの開催等を通じてその情報提供を行います。

それらに合わせ、熊本地震を始め、昨今起これ得る災害情報と、その復興・復旧に関する正確な現地情報、交通インフラ情報などを収集し、地域住民、観光客ともに役に立つよう適切に発信します。

③ 阿蘇回帰運動への取り組み

阿蘇への移住・定住を促進させるため、各市町村が実施する移住・定住を促進させる取り組みを一元化し、発信します。

また、阿蘇地域の文化継承のできる研修会や、阿蘇住民と来訪者が交流できる場づくりなども適切に地域に繋げ、地域人材のスキルアップを図ります。

④ 復興支援活動の取り組みへの支援（人材育成）

復興に取り組む支援者や支援組織の活動をサポートできるように、地域の情報交換や人材交流、人材発掘などを目的として研修会を開催するなど、人がつながる場づくりを提案します。

さらに、職員の研修会・交流会などによるディスカッションの場をつくり、各市町村間などとの横の連携を強化しながら、職員の人材育成を実施します。

取り組み2.

豊かな自然による世界ブランドの確立 ～阿蘇の草原の維持・再生～

目的

全国的にも類のない広大な草原景観は、年間約1,600万人が訪れる観光地である阿蘇地域の生産・生活を支える重要な資源であり、阿蘇地域全体の活力維持・向上に向けても今後不可欠な資源です。

しかしながら近年の農業産業の変容に伴い、草原維持を担う牧野組合の減少及び組合員の高齢化などにより、草原面積は減少し続けており、雄大な草原景観の劣化が懸念される非常に厳しい状況にあります。そのため、広く地域内外に向け、草原景観保全に向けた機運の醸成を図るとともに、地域ぐるみで行う草原保全活動に取り組んできました。

また、草原をはじめとした豊かな自然を阿蘇地域全体の地域活性化につなげていくため、「阿蘇世界ジオパーク」への認定(H26.9)や「阿蘇草原保全支援システム」を通じた草原の維持・再生への取組について主体的に取り組んできました。

さらに「世界農業遺産」「国立公園満喫プロジェクト」への選定や、世界文化遺産登録を目指す等、阿蘇全体を通して世界ブランドを確立する気運が高まっております。

こうした豊かな自然を活用した世界ブランド事業の発展については、関係団体と適切に連携し、阿蘇の草原の維持・再生につながるよう推進します。

1 草原再生 PR 事業

阿蘇を代表する雄大な草原景観や森林景観、畜産、農業、水源涵養、観光といった草原の持つ多面的な機能を次世代へ継承する機運を高めていくため、その価値や現状を地域内外に向けて発信します。シンポジウムや講演会など、公益財団法人阿蘇グリーンストックと活動を連携、支援しながら阿蘇の草原の保全に寄与します。

2 野焼き支援事業

担い手の高齢化、後継者不足により、放棄地面積が年々拡大する現状を踏まえ、阿蘇草原再生協議会や阿蘇草原保全支援システム連絡会と連携を図り、更なる草原再生の気運の醸成を図ります。

3 阿蘇産品の振興

あか牛をはじめとする阿蘇の畜産や、農産物など、阿蘇の世界ブランド確立の礎となる阿蘇資源の魅力を発信するとともに、阿蘇産品の発掘を行うなど、振興を図ります。

また、災害を機に阿蘇資源が衰退しないよう、各種PRを行うとともに、物品販売の機会なども創出します。

4 世界ブランド事業の推進

平成25年5月に「世界農業遺産」の認定、平成26年9月に「阿蘇世界ジオパーク」の認定を受けたことを踏まえ、様々な団体と連携を図り、「豊かな自然を活用した世界ブランドの確立」に向けて支援を行います。

取り組み3.

広域連携による競争力のある観光地づくり

目的

本財団では、阿蘇山麓エリアと、阿蘇を中心とした他県の周辺地域も巻き込んだ、「広域周遊型の観光まちづくり」などの形成を視野に、経済の活性化を促進し、滞在交流型の観光地づくりを進めるため、自然景観をはじめとする地域資源や新たな魅力を発掘し、阿蘇地域ならではのコンテンツづくりや地域が一体となった受け入れ体制の強化を進めながら、競争力のある観光地づくりを目指します。

またその魅力の発信や情報の一元化、地域ブランドの普及活動にも努めます。

1 新たな阿蘇資産の構築・推進

阿蘇らしい新たな観光ツールづくりを実施するとともに、「食と農、暮らし、景観」をテーマとしたツーリズム活動などを推奨するために新たな地域資源の発掘を行います。

2 広域連動型観光まちづくり

阿蘇山麓エリアと、阿蘇を中心とした他県の周辺地域も巻き込んだ、「広域周遊型の観光まちづくり」などの形成を視野に、人的ネットワーク等を活用しながら広域で連動できる観光まちづくりを目指します。

取り組み4.

デザインセンターをデザインする！

1 経営体制・事務体制の改善

DC 運営における収支バランスや事業を見直し、財政力を強化できるよう、自主事業の実施を検討し、広範囲から寄付を集めなど、安定した経営体制の確立を目指します。

また、事業推進に伴う事務体制を強化できるよう、適切な人材を確保できる環境づくりを行います。

2 DC のトータルイメージデザイン

DC らしい内部・外部の空間デザインへの取り組みや、窓口機能・おもてなし機能づくりなど、誰でも気楽に立ち寄れる雰囲気づくりに取り組みます。

さらに、公募デザインによるロゴづくりなど、DC のトータルイメージデザインづくりに取り組みます。